

## 魂を育てる よいところに気づくこと

校長 Sr.大山 江理子

緊急事態宣言が継続されていますが、初等科では元気に学校生活を続けています。運動会が中止となるなど行事は制限されますが、学校で学ぶことを最大限に活かして進めます。

6月はイエスのみこころの月です。初等科では5月に続いて、みこころの月のプラクティスを行います。5月にはよいところを見つけること、6月にはよいところを人のために活かすことを心がけます。聖心として、イエスのみこころに倣うことを目指す季節です。



「みこころ」を大切にしながらも、聖心の教育では、その方針に「魂を育てる、知性を磨く、実行力を養う」にあるように、「魂」という言葉を使っています。「魂」という言葉をあまり日常生活の中で使わないかもしれません。魂というと、何かとても遠くにある、不思議なものと感じることがあるかもしれません。しかし、「魂」は、何か非常に深い感動や意気込み、苦しみや悲しみの表現の中に見つけることができます。すぐれた芸術にも魂の躍動を感じると言ったりします。そのようなときは、心よりも力強く、深い、ほんものを表そうとしているように感じられます。

聖マグダレナ・ソフィアは「教育の目的は言うまでもなく魂の救い」と語り、具体的には「謙虚で、働き者で、義務に堅実な女性」、「社会に通用する女性」を育てるとしています。聖マグダレナ・ソフィアにとって「魂を育てる」とは、自分の良さをしっかりとつかみ、心の底にしっかりと芯をもち、うわべだけでなく、ほんものを生き、それが具体的な日常生活の生き方になっている、そのような人物を育てるということと言えます。そして、聖マグダレナ・ソフィアはその魂のより所をイエスのみこころにおいていました。聖心のプロファイルは「魂を育てる」ことが目指している姿です。



みこころの月のプラクティスを通して、子どもたちは、自分の良さを改めてつかみ、それを人のために活かしていきます。これは魂を育てるレッスンです。よい関わりがあるとき、私たちは自分の良さを見つけ、気づいていきます。これは魂に目覚める時でもあります。

子どもが自分の良さに気づき、魂を深めていかれるように、お子さんの良いところを見つけ、伝えてください。子どものよいところに気づき、見つけるとき、大人もまた自分の魂に目覚め、深めていくのではないのでしょうか。

### 6月の予定 ～みこころの月～

- |                      |                         |
|----------------------|-------------------------|
| 3日(木) スポーツデー         | 17日(木) 6年英単語検定(4限)      |
| 4日(金) 家庭学習日(私学一日研修)  | 18日(金) みこころの祝日行事        |
| 7日(月) 1年・転入・編入生保護者会  | 23日(水) 6年まどめのテスト①(1-4限) |
| 11日(金) スポーツデー予備日     | 24日(木) ～7月9日(金)         |
| 12日(土) 第1回初等科入試学校説明会 | 2～6年水泳                  |
| 14日(月) 一日学校参観日①(ばら組) | 保護者講演会                  |
| 15日(火) 一日学校参観日②(ゆり組) | 第1回転入・編入学校説明会           |
| 16日(水) 一日学校参観日③(きく組) |                         |
| 不審者対応訓練(学年の時間)       |                         |

## 関わりを通して

教頭 吉岡 真左美

先日の放送朝礼で、次のような6年生の朝の祈りがありました。「コリントの信徒への手紙に、『神様はあなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練とともに、それに耐えられるよう、道をも備えていてくださいます』という言葉があります。私たちは今、スポーツデーに向けて練習をしています。挑戦しても上手くいかないことがあるとき、この言葉を思い出し、諦めずにまた頑張ろうと思うことができますように」

初等科では、6月3日のスポーツデーに向けて、各学年が練習に励んでいます。残念ながら大勢の保護者の方々やご来賓をお招きすることができず、いつもの運動会とは開催方法が違いますが、このお祈りの言葉にあるように、一人ひとりがさらに力強く、美しく、高きを目指してクラスや学年の仲間とともに取り組んでいます。



目標に向かって頑張る姿はとても素敵です。そのとき、その人の内面では、どうしたら目標に近づくことができるか、自分自身と対話しながら(関わりながら)適切な方法を考えて実行したり、身近な人と関わって助言をもらってヒントにしたりと“化学反応”を起こしながら主体的に取り組みを進めます。そういった姿は、周りにも良い影響を広げていきます。

その姿を見て、「私も頑張ろう!」と思えることも素敵です。そこからお互いの学び合いが生まれ、学習が深まっています。

学校は、子どもたちにとって身近な“社会”です。様々な関わりを通して、一人では気づかなかったことを知って視野を広げたり、仲間とともにやり遂げることで、思ったより大きな達成感を得たりすることができます。関わりを通しての人間形成は、聖心の教育の中で大切なポイントとして長く受け継がれてきました。現在は感染予防の観点から身体的な距離をとるよう意識しなければなりません。心の距離は離れないように、学校での学習や活動、行事など色々な場面で関わりを通して成長できるように、工夫して進めて参ります。

保護者の皆様の励ましも、子どもたちにとって大きな力になります。そこにも、素敵な関わり合いが生まれますね。



みこころの月のプラクティス  
「わたしのよいところを だれかのために」